



大 萩 康 喜 殿

松山市

■事績

松山市出身の大萩康喜さんはゲーム音楽やJポップ、民族音楽などの鑑賞が好きで、立命館大学に入学したことを機に邦楽部に入部しました。当時、尺八の部員数が少なく、先輩から尺八を吹くことを勧められたことをきっかけに、その面白さに没頭しました。大学卒業後一旦就職するも尺八への思いから会社を辞めて尺八の道へ進みました。

松山市内にある100年以上の歴史を持つ「西田露秋尺八工房」の三代目の下で5年間修業し、師匠の勧めもあり2016年に独立。同年9月、下伊台町にあった祖母宅の離れに尺八工房慈庵を構えました。

尺八製作の傍ら、演奏活動も行っており、「第24回くまもと全国邦楽コンクール」に於いて古典本曲『鶴の巣籠』を演奏し、最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞。和楽器の他にもジャズ、ポップス、フラメンコ、舞踊などの多様なコラボステージや、古典から現代まで幅広いジャンルの演奏を行っています。

大萩さんは尺八の魅力について「息の吹き方、身体の使い方をコントロールすることで音色を多様に変化させ、一音だけで音楽を表現できること」と語っています。自身で主宰する教室の他にもカルチャー教室や、地域の財団法人が企画するアウトリーチでの演奏やワークショップ、愛媛大学の非常勤講師を務める中で、子供から大人、国籍も問わず尺八の魅力を伝え、日本の楽器である尺八の火を絶やさまいと活動を続けています。